



2019年12月2日

各 位

三重県保険医協会

## 運動の取り組みについて

協会は、7月～10月にかけて三重県議会の全会派と社会保障関連15項目の要望書を基に懇談を行った。開催日時順に会派の考えを報告する。

### 【要望項目】

- 一、三重県福祉医療費助成制度（子ども医療費、障がい者医療費、一人親家庭等医療費）の窓口負担について、所得制限のない窓口無料化の実現に向けて、県が市町に対して、働きかけるよう取り組んでください。
- 一、国民健康保険療養費等国庫負担金の減額調整措置（いわゆるペナルティ）の完全な撤廃に向けて、継続的に県が国に対して、働きかけるよう取り組んでください。
- 一、子ども医療費助成制度の対象範囲を、通院・入院を含め義務教育修了（中学校卒業）までに拡大するよう県に対して、働きかけをしてください。
- 一、三重県福祉医療費助成制度（子ども医療費、障がい者医療費、一人親家庭等医療費）の「入院時食事療養費」について、公費助成とするよう、県が市町に対して、働きかけるよう取り組んでください。
- 一、「おたふくかぜワクチン」について、定期接種化されるよう県が国に対して、働きかけるよう取り組んでください。なお、当面の間は、県が公費助成を行うよう取り組んでください。
- 一、産婦健診費用について、県に対して公費助成を行うよう取り組んでください。
- 一、妊婦歯科健診費用について、県に対して公費助成を行うよう取り組んでください。
- 一、国民健康保険制度の財政運営の一元化に伴う市町の保険料の算定につき、市町の判断で一般会計からの繰り入れを認めるよう取り組んでください。
- 一、国民健康保険料の計算につき、18歳未満の子どもについては、子育て支援の観点から、均等割の対象とせず、当面一般会計による減免制度を実施するよう県に働きかけてください。
- 一、地域医療構想による病床削減について、地域医療の実態を優先し、受け皿となる在宅医療提供体制・地域包括ケアを充実するよう取り組んでください。
- 一、県内の医師不足・看護師不足解消のため、三重県医師修学資金貸与制度・三重県保健師助産師看護師等修学資金の枠を拡大するなど、対策を講じるよう取り組んでください。
- 一、県内の歯科衛生士不足解消のために、歯科衛生士学生を対象とした修学資金の貸与制度が創設されるよう取り組んでください。また、復職を希望する歯科衛生士が医療現場に戻る体制となるよう取り組んでください。
- 一、10月からの消費税率10%引き上げについて、医療関連費用にゼロ税率を適用し、控除対象外消費税（いわゆる損税）を解消するよう、県が国に対して、働きかけるよう取り組んでください。
- 一、三重県でも受動喫煙防止条例の制定に向けて取り組んでください。
- 一、三重県での高齢者外出支援事業の創設に向けて取り組んでください。

\* \* \*

### 【日本共産党】

福祉医療費助成制度のさらなる充実を

9月から全市町で未就学児が子ども医療費窓口無料化になった。知事本人は『実施しない』という姿勢だったが、市町など現場をよく知るところから声が上がってきたので、言っていられなくなったと思う。また市町に負

担いただいていた分だけ、県の出費が減ったので、その分で医療費助成の拡大や所得制限の緩和などができることがあるので検討して要望していきたい。産婦健診の公費助成については、産後うつがネグレクトにもつながる。どこの市町でもこんにちは赤ちゃん事業を実施していると思うが、その回数を増やしたり、気軽に医療機関に受診できるように考える必要がある。

#### 【自由民主党県議団・自民党・草莽】

子ども医療費窓口無料化の市町間格差解消を検討

子ども医療費窓口助成については、一歩進んだと思っているが、まだまだ市町間で格差があるので検討を進めていきたい。高齢者外出支援事業については、市町で取り組むものと思うが、県内で実施している市町は少ない。県としては機会を通じて市町に何らかのアクションを起こしたり、市町がまたがる場所などで何かの制度作りをしていかなければいけないと思っている。

#### 【草の根運動いが】

高齢者外出支援事業は住民のバス停までの移動も課題

受動喫煙防止条例の制定についての要望には賛成している。高齢者外出支援事業については、バス停まで行けない人がいる。また、高齢化で運転士の確保も難しくなっている。タクシー会社と連携して定期運行しているところもある。

#### 【新政みえ】

在宅医療を担う医師不足

地域医療構想と地域包括ケアシステムは両輪で、国として限られた財源資源の中で社会に対応していくということで進められている。貴会が実施した在宅医療アンケート調査でも、在宅医療を担う医師が少ないことを把握している。住み慣れた地域でケアが受けられることは理想であるが、介護職の人材不足など現状として無理があると思っている。国全体で予算配分し、抜本的に取り組んでいかないといけない。医師不足・看護師不足については、診療科での地域偏在も深刻であると認識している。国全体で動かないとなかなか抜本的に解消することは難しいと考える。

#### 【公明党】

ワクチン接種を公費助成

ロタウイルスワクチンが来年 10 月から定期接種されることとなった。党として特に力を入れていた。ロタウイルスの確実な接種実施を求めたときに、おたふくかぜワクチンの助成についても申し入れた。また、党としてワクチン接種を公費助成でやっていけるように財源も含めて検討してもらいたいと要望もした。

妊婦歯科健康診査については、市町によってばらつきがある。歯と口腔の健康はとても重要でちょうど県議会でも歯科医師会からの要請もうけて、『みえ歯と口腔の健康づくり条例』の改正も含めた要請をいただいている。

協会では、各党派との懇談から各方面への積極的な働きかけが必要であることを確認し、今後も医療行政の改善に向けて活動していく。

10 月 17 日、保団連中央要請行動、また日比谷野外音楽堂で「憲法・いのち・社会保障まもる 10・17 国民集会」（「憲法・いのち・社会保障まもる 10・17 国民集会」実行委員会主催）が開催された。三重協会から鶴飼・梅村各副会長が参加した。

今回のゲストスピーカーは、ワイドショーなどによく出演している小説家の室井佑月さん。インタビュー形式で、ご自身の病気のことははじめ、患者さん目線での今の医療現場のことなどを和やかにお話しされ、私たち医療介護従事者にエールを送っていただいた。保団連からは、口と全身の関係などをクイズにした「歯の検定」を私と大藪憲治先生（愛知協会）が、リレートークには竹田智雄先生（岐阜協会）が登壇した。

この集会は、医療介護の労働組合などをはじめ 10 団体で実行委員会を作っており、各構成団体からも現場の実態や制度の不合理性などを訴えるリレートークが続いた。その後、雨も降りだしたが、少しでもより良い医療を国民に提供し、私たち医療従事者が生き生きと働ける環境目指して、皆でシュプレヒコールを行い、日比谷から銀座までパレードを行った。

三重協会からの参加は、梅村忠司副会長、私と事務局の 3 人。いつもどおり集会の前に、三重県および比例東海選出の国会議員事務所を訪ね、診療報酬の大幅引き上げと患者負担軽減、消費税 10%の撤回を訴えた。また歯科単独の課題として保団連がまとめた「金パラ価格改定」資料を基に「逆ザヤ」の問題点についてぜひ厚労委員会などで取り上げていただけるよう要請し、歯科会員署名をお渡しした。議員本人と面談できたのは、田村憲久氏（衆 1 区）、中川正春氏（衆 2 区）、岡田克也氏（衆 3 区）の 3 人。

（三重県保険医協会副会長・鶴飼伸）

以 上